

中山間地域の社会参加に着目した 時間バランスシートの開発

公共システム研究室 吉田絵梨子

1. はじめに

集落が持続可能であるための条件の一つに、集落住民による活発な社会参加が考えられる。社会参加は、社会活動における人々の接触の機会の多さとして把握することができ、時間の多さという量的な側面と誰と接しているのかという質的な側面がある。これらの側面のうち、どれが集落の持続可能性に貢献するかを明らかにできれば、集落の持続のための政策・事業の立案が可能になり、持続可能な集落の形成に有用であると考えられる。しかしながら、このような観点で社会参加を具体的に計測した研究はこれまでにない。

そこで本研究では、様々な人々の間での時間のやりとりを活動別に記した時間バランスシートを開発し、社会参加の定量化を試みる。

2. 検討のアプローチ

社会参加においては、ある人が時間を投入して活動を生産するとともに、その生産サービスを自分や他人が消費するという構造がある。このような構造を記述したものとして、地域間の産業的なつながりを財の投入と消費の観点で表示した社会・経済産業連関表がある。そこで、以下では、産業連関表を参考に、時間バランスシートの作成方法を検討する。

3. 時間バランスシートの作成方法

時間バランスシートの作成にあたり、まず着目する活動を決める。その上で自分が自分のために投入し消費する「個人活動」（例：趣味）、個人が家族のために投入し家族が消費する「家族活動」（例：家事）、その他「地域活動」（例：集落の運動会）、「地域外活動」に分類し、誰への貢献を期して投入された時間かを明示することにした（表1参照）。なお、個人活動においては、年齢別の時間的負担が分かるよう、未成年、成人、高齢者に分類した。

時間バランスシート作成に必要なデータは、アクティビティダイアリー調査で得られる。具体的にそこでは、年齢、活動内容、活動の所要時間、活動をともにした人、その人達の居住地のデータを必要とする。

得られたデータを時間バランスシートに入力する際、時間の割り当てルールを要する活動がある。それらとしては①活動の実施主体が自分以外にも存在し、その全員が消費する活動、②自分が

表1 活動の分類の内容

個人活動	食事、運動、趣味、受診、入浴等
家族活動	食事、運動、家事、買い物、世話等
地域活動	食事、運動、寄合、祭りの準備等
地域外活動	食事、運動、学習・お稽古等

表2 時間バランスシートの構成例

	個人活動			家族活動	集落活動	その他	集落外活動	合計
	18歳未満	18~64	65以上	食事	食事		食事	
個人活動	18歳未満	200		3000	400			3600
	18~64		300	65000	13000			78300
	65以上		500	20000	1900			22400
家族活動	食事	12000	50000	8000				70000
集落活動	食事	10000	2300	3000				15300
その他								
集落外活動	食事							
合計		22200	52600	11500	88000	15300		189600

投入し自分以外が消費する活動③自分が投入し、全員が消費する活動があり、それらごとにルールを設定し時間を割り当てた。

時間バランスシートの簡単な構成を表2に示す。この表は以下を表している。個人活動の18歳未満の行に3000とあるが、これは集落における未成年が家族との食事に時間を3000分投入したということである。個人活動の18~64歳の列に2300とあるが、これは集落における成人が、集落の人との食事に投入された時間を2300分消費したということである。

4. 事例分析

ある地域を対象に時間バランスシートを作成し、集落の持続可能性との関係について分析した。持続可能性の指標を壮年人口の増減率とし、この指標と相関する社会参加の活動時間を特定した。その結果、集落の住民が集落の人と運動した時間、寄合や社交にかけた時間が特定された。また、高齢者が家族から介護を受けている時間が多い集落や、高齢者が送迎を行っている集落は、人口減少率は高いという結果となった。これより公共交通の維持や、地域運動会の開催が集落の持続可能性には有効と考えられる。